

# 風を探して

ママさん探訪記

## 身近な文化を認識し育んでいく素晴らしさ 「第3回県民文化祭あまくさ'90」より

「生きていく原点が  
ここにある」  
——本渡会場「天草風俗生活館」——

常設展示の中で興味深かったのは、「今昔ライフ」と題した「天草風俗生活館」。ここでは、島の自然と風土の中で生まれ、今に生き続ける工芸品の展示、実演、風俗や信仰、行事などが展示されているほか、映像でも紹介されていました。

天草びなや天草バラモン風といった玩具類や、玄関先に鯛をつりさげ、紅白のもちを木の枝に刺して祝う正月の風景など……。素朴で温かなものばかりの館内は、電化製品がはびこる現在の生活の中で、「生きていく」とはどのようなことか、その原点を見直せる空間になっていました。

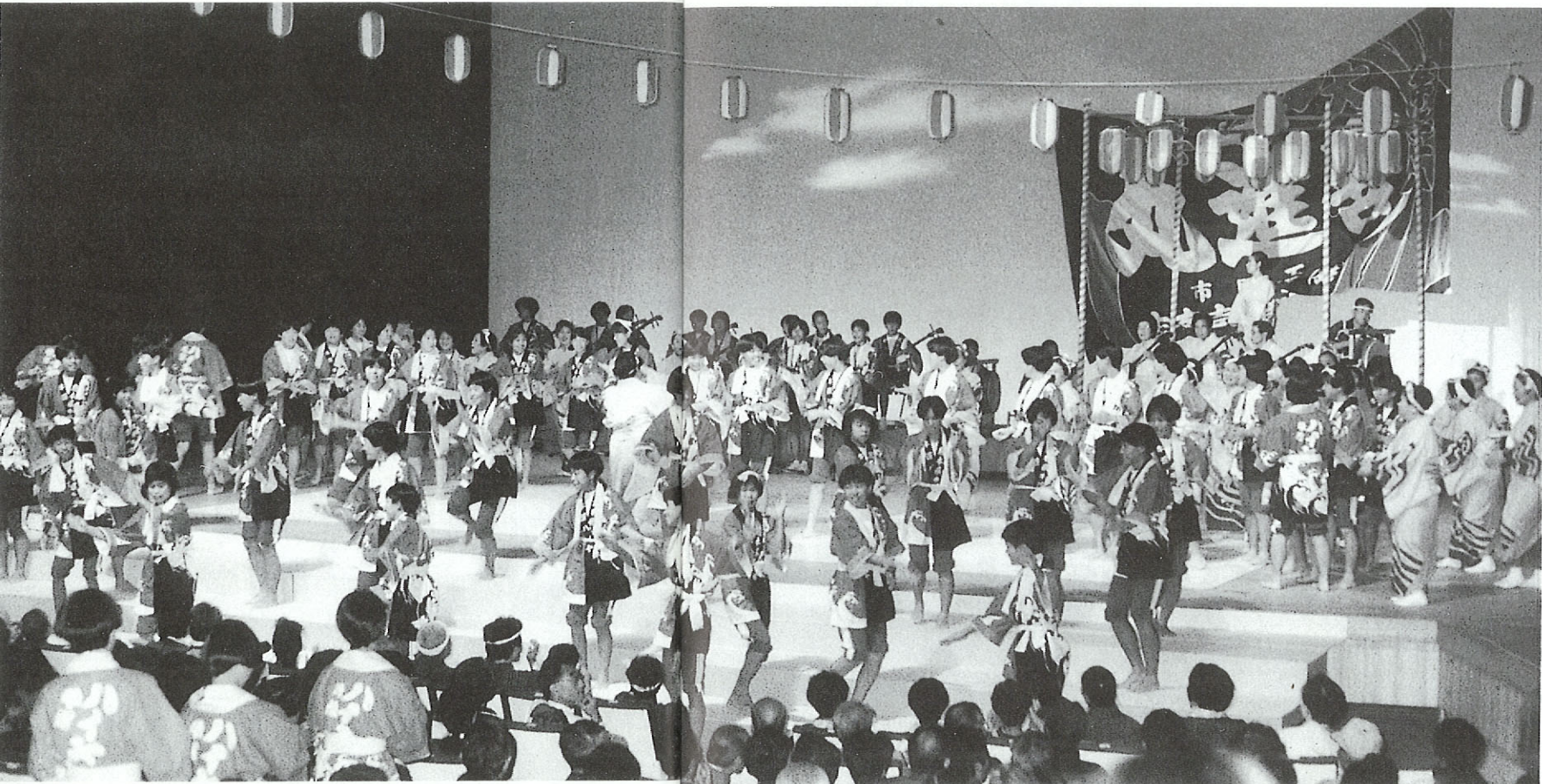


「天草風俗生活館」(本渡市営体育館)

「第3回県民文化祭あまくさ'90」が10月13日から9日間、本渡・牛深両市で開催されました。県民文化祭は、県民の文化活動への積極的な参加と文化の相互交流を目的に、一昨年の八代を皮切りに各地域持ち回りで毎年開かれているものです。

今回、天草では「海と空と人とのふれあい」をテーマに「南蛮文化」の本渡会場、「黒潮文化」の牛深会場の2会場に分かれて、音楽や演劇、郷土芸能、各種シンポジウム、作品展示などが行われ、連日どの会場も大勢の人でにぎわいました。

そこで、今回のママさん探訪記では、多彩な催しを展開した県民文化祭あまくさを訪れ、私たちに、「文化とは何か」を考えました。



10月21日ランドフィナーレ「ハイヤのリズム」に酔う(牛深総合センター大ホール)



10月14日「望洋大茶会」(うしぶか公園)



10月17日「南蛮文化シンポジウム」(本渡市民センターホール)

### 「ネオ天草コレジヨ」 南蛮文化との出会い

——南蛮文化シンポジウム——

十月十七日、本渡会場では南蛮文化シンポジウムが開かれました。結城了悟長崎二十六聖人記念館館長による「南蛮文化と天草の人々の暮らし」の基調講演の後、ポルトガルを通じて南蛮文化を受け入れた天草の人の歴史に始まり、現在、そして未来に想いを寄せたパネルディスカッションが行われました。一般に天草の歴史はキリシタンに対する弾圧、反乱などの側面だけで捉えられがちですが、一方に、異国文化を受け入れることができる豊かな人間性、太陽をいっぱい受けて明るく活発に生きる天草の人々の開放性があるのです。このような地域だからこそ「これまでの歴史を利用するのではなく、この国際化、情報化時代にこそ歴史を生かし、学び、伝えていかなくてはならない」という話が印象的でした。

私たちは、「南蛮文化を受け入れた天草」を知ることで、人間とは、出会いとは、そして文化とは何かをもっと考えていくべきだと実感しました。

あまり知らされていない南蛮文化をこれから伝えていこうとする活気。古くから伝わる生活の知恵や伝統を守っていこうとする熱気。私たちはこの文化祭から、天草の人たちのそんなメッセージを受け止めたような気がしました。

そこで、改めて身の回りを見渡してみると、毎日の生活や子どもたちの遊びの中にもさまざまな文化がたくさん詰まっていることに気がつきます。しかし、普段は、そういったことも意識せぬままに過ぎてしまっています。

私たちは天草で文化祭を見、その文化に触れたことで身近な文化を認識し、守り、育んでいくことの素晴らしさを身をもって教えられたように思いました。

### 躍動する牛深はハイヤのリズム

——「黒潮文化」の牛深会場——

さて二十一日、最終日。牛深会場の一つ、牛深町漁協第四荷捌き所はいつもとは一味違う活気を見せ、豊饒の海がもたらす食の文化のうれしい展示試食会となりました。大漁旗が海風になびき、漁船と港を目の前に潮風を受けていたたくお刺身のおいしいこと。その量と、魚の種類、料理法のバラエティの豊かさに目を見張りました。海の幸の香りと大勢の人たちの活気。躍動する牛深を肌で感じる

年齢を感じさせないほどの明るく生き生きとした表情と踊りに胸が熱くなったのは私たちだけでしょうか。

ことができました。お腹がいっぱいになった頃に、太鼓、三味線が鳴り響き始めました。加世浦老人クラブの方々による牛深ハイヤのルート、元ハイヤです。

保存会によるハイヤをはじめ、ロックハイヤ、スローハイヤ、元ハイヤ、そして牛深高校クラブのハイヤ踊りなど、さまざまなイメージ構成のハイヤが、息もつかせぬ演出で次々に披露され、黒潮文化の熱気が会場を圧倒しました。

お年寄りから若者へと確実にバトンタッチされているのです。

文化はハイヤの強烈なリズムに乗って、お年寄りから若者へと確実にバトンタッチされているのです。



10月21日「魚文化を楽しむ」(牛深町漁協第四荷捌き所) 小園智子さん(右)と、橋野君佳さん(左)